

岩高短歌
「ワタシタチノウタ」
月間優秀賞作品 R5⑥

発行者
岩出山高校
国語科

〔十月〕 赤色・秋のもの・教室・政宗公まつり・就職・入試

月間賞

教室の窓から見えるグラウンド見飽きたようであつと寂しい

第二席

踏みしめる落ち葉の数と同じだけ思い出作る高校の秋

第三席

何気なく落ち葉拾いて見比べる幼少期の淡い思い出

面接日緊張する私の心高鳴る鼓動熱く轟く

紅葉たち風に煽られ落ちていく水面に浮かぶは赤き世界

憧れは追いかけてみても遠ざかる闇夜に浮かぶお月様のよう

もみじの葉風と舞いつつ旅にいるその身を託しどこまでもゆく

優良賞

秋風が吹きはじめてる朝方は少しひんやり目を覚ましてく

寒空に生い茂る木々震え出す葉も色を変え冬への支度

午後六時間に呑まれた教室は綺麗な夜空のプラネタリウム

朝寒の湯に浸かりて暇して肌を感じる秋の寒暖

夏が過ぎ少し冷えた机上にはひらひら舞った枯葉の赤が

教室が賑やかになる文化祭片付けすると寂しくなるな

寒くなり赤い絨毯敷かれてく放課後あのみちほらあの山も